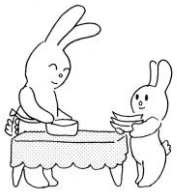
４、食物アレルギー児童への対応

乳幼児期には、食べ物の消化が十分でなく、抗原性（アレルギーの原因）を残したまま吸収されることが多いため、食物アレルギー症状が出ることがあります。３歳を過ぎ、消化吸収の働きが十分に発達すると症状は少しずつ改善されます。食物アレルギーの除去は、年齢が小さいほど除去する期間も短くてすむといわれ、また、喘息などに進行しないようにするためにも、早期対応が必要です。保育所でも、食物アレルギーのある児童の健康増進と望ましい食生活の形成を図るため、医師の指導により食事療法を実施している児童を対象とし、児童の保護者の申請に基づき、原因食品を除去する等の方法により給食を実施しています。

子どもは、発育・発達過程にあり、授乳期から毎日「食」に関わり、「食を営む力」を学習していきます。そして、乳児期、幼児期、学童期～思春期とその発達過程に応じた指導をしていくことが必要です。上記の結果をもとに、子どもの育ちの過程から、乳幼児期における《食べる力》を育てる目標として「保育所ですすめる食育の全体目標・子どもの健康づくり食育目標」を以下のようにまとめました。